

(様式2)

農業の新しい技術

No. 721(令和元年(2019年)5月)

分類コード 01-14

熊本県農林水産部

褐毛和種種雄牛「光玉重ET」の選抜

農業研究センター 畜産研究所生産基礎技術研究室
担当者：眞鍋由希

研究のねらい

産肉能力直接検定で選抜された種雄牛の遺伝的能力を推定するため、後代牛による産肉能力現場後代検定を実施し、その結果に基づき優秀な種雄牛を選抜する。

研究の成果

1. 枝肉重量の優れた褐毛和種種雄牛「光玉重ET」を選抜した。

血統

父 光玉波
(高80)

母 まり
(産肉812)

祖父 第五玉波(特級96)

— 玉波(高70)

祖母 くにいずみ9(育高63)

— 第二光泉(高66)

祖父 第十六光重(育高2)

— 光重ET(育高1)

祖母 たまひかり(繁殖11610)

— 波丸(高74)

登録番号：繁殖207

生年月日：平成25年10月19日

生産地：玉名市横島町(家畜改良センター熊本牧場)

2. 現場後代検定成績および育種価

枝肉重量は去勢527.5kg、雌474.1kgとなり、全体平均は514.9kgと歴代最高成績であった。育種価も+42.6kg(評価種雄牛521頭中17位)と極めて高く、優れた能力を有すると推定される。

ばらの厚さは去勢8.1cm、雌8.1cmと優れており、育種価も+0.8843cm(評価種雄牛521頭中6位)と極めて高く、優れた能力を有すると推定される。

SBVは枝肉重量2.48、脂肪交雑1.23、ロース芯面積1.05、バラの厚さ2.68、皮下脂肪の厚さ-0.19であり、多くの項目について改良効果が大きいと推定される。

SBV(標準化育種価)は、育種価評価値をわかりやすくするために標準化したもの。値が1以上の場合、改良効果が高いことを示す。

3. 特徴

光玉波を父に持つ本牛は、枝肉重量が極めて優れ、ばらの厚さにも優れていることから特に肉量面の改良に貢献する希少系統種雄牛として期待される。

[具体的データ]

熊本県農林水産部



光玉重 E T (みつたましげイーティー)



格付け:A-4 枝重:543.7kg
BMS No.:5 ロース:76cm²
ばら:7.7cm 母の父:菊光丸

表1 現場後代検定成績

区分	頭数	枝肉重量 (冷と体) (kg)	脂肪交雑 (BMS No.)	ロース 芯面積 (cm ²)	バラの 厚さ (cm)	皮下脂肪 の厚さ (cm)	日齢枝肉 重量 (g)
去勢	13	527.5	3.80	58.3	8.1	3.1	682.6
雌	4	474.1	3.00	54.5	8.1	3.5	631.4
全体	17	514.9	3.60	57.4	8.1	3.2	670.5

表2 育種価(BV) (H31.4 評価)

	順位	育種価	(正確度)
枝肉重量	17	42.6	0.87
脂肪交雑 (BMS No.)	70	1.511	0.90
ロース芯面積	62	4.28	0.86
ばらの厚さ	6	0.8843	0.86
皮下脂肪の厚さ	321	0.0338	0.90
日齢枝肉重量	15	56.377	0.87

後代頭数 21頭(フィールド成績を含む)

順位は評価種雄牛 521 頭中の順位

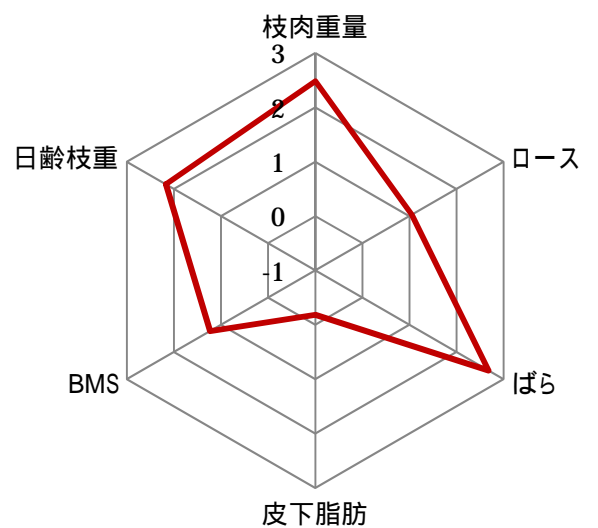


図1 SBV(標準化育種価)
形質ごとに比較でき、わかりやすくするため
に標準化したもの
皮下脂肪は逆符号